

1学年通信

千葉県立松戸向陽高等学校第1学年

平成24年4月16日発行

入学おめでとう

4月9日(月)285名の新入生を迎え、松戸向陽高校第2回入学式が挙行されました。大きな返事で応えてくれた子、恥ずかしそうに起立した子……様々でしたが、みんな輝いて見えました。これからの3年間で楽しみます。入学式の最後に保護者代表の方から御挨拶をいただきました。みなさんの心に届いたでしょうか。

入学式の保護者代表の方のご挨拶より(一部抜粋)

新入生の皆さんには新しい門出を祝い、詩人金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩を贈りたいと思います。

「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、

飛べる小鳥は私のやうに、
地面(ジベタ)を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、

あの鳴る鈴は私のやうに、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

皆さん一人ひとり、自分という素敵なものを持っています。
大事にしていってください。
そして悩み迷っている人がいたら、
少し心を寄せてその思いを感じてあげてください。
相手を理解し認める事のできる強さと優しさを
いつも心に持っていてほしいと思います。

私と小鳥と鈴と

入学式の当日、家に帰って「私と小鳥と鈴と」を検索してみました。多くの方がこの詩に曲をつけていました。いくつか聞いてみましたが、どれも心にジーンとくるものがあり、人間の原点に還ったような気持ちになりました。この詩について矢崎節夫さんという方がつぎのような解説をしていました。みんなにも是非とも読んでもらいたいと思い、紹介します。何かを感じ、何かを考えて欲しいと思います。

「私と小鳥と鈴と」の中で、みすゞさんは「みんなちがって、みんないい。」と歌ってくれています。みんなちがって、みんないい。あなたはあなたでいいのです、といわれているようで、偉大な気持ちになります。

みすゞさんは、なんとすてきなことばを、私たちに残してくれたんでしょうか。

先日、教育出版の小学国語五年下についている「みすゞさがしの旅」の授業を見ていただいた時に、五年生くんから「[みんなちがって、みんないい。]って、人殺しでもいいの」とたずねられて、びっくりしました。そこで、次のように答えさせてもらいました。「[みんなちがって、みんないい。]というのは、**一人ひとりがみんな光り輝いている、大切な存在だということです。**ですから、**人殺しをしたり、傷つけたり、いじめたりする人は、みすゞさんの[みんなちがって、みんないい。]の中には入りません。**人を殺したり、傷つけたり、いじめたりする人は、きっと、このことばをまだ知らないから、そんな悲しいことができたのでしょう。[みんなちがって、みんないい。]をちがうことばでいうと、「**まるごと認めて、傷つけない**」ということです。小学生のみなさんが、本気でこのことばを大切に、自分のものにしてくれたら、みなさんが大人になるころには、日本中から一人も、人を殺したり、傷つけたり、いじめたりする人がいなくなるでしょう。そうなったら、どんなにすてきでしょう」「まるごと認めて、傷つけない」とは、愛するということです。それも、それぞれに佇んで、

「**不平等に愛する**」ということです。この世の中には、**だれ一人として平等に生まれている人はいないからです。**一人ひとりに佇み、不平等に愛して、初めてだれもが平等に伴せになれるのです。学校の中で、職場の中で、**自分の心と一番遠い人に、一番心を飛ばす。**大変なことです。それなしには「みんなちがって、みんないい。」は成り立ちません。「みんなちがって、みんないい。」とは

大きいもの	小さいもの	力の強いもの	力の弱いもの
有名なもの	無名なもの	有用なもの	無用なもの
見えるもの	見えないもの		

すべてが 尊い ということです。

今まで私たちは目立つ部分(大きい・力の強い・有名・有用・見える)だけを見てきました。

しかし、みすゞさんが甦ってくれたおかげで、これまで見えなかったことが見えてきました。

みすゞさんに感謝したい、そんな気持ちでいっぱいです。